

聖書が教える『救い』って何ですか？

「放蕩息子の譬え」(新約聖書ルカの福音書 15章) から



① 「すべてのものをまとめて」

【救いとは】

一般的に『救い』と言えば、苦しみからの解放と思われれます。しかし、聖書の『救い』とは、失われていたものを元の状態に回復することを言っています。ここを勘違いすると、試練の度に「イエス様を信じているのに、何故苦しめないといけないのか。自分は救われていないのか。」と信仰の確信を失うかもしれません。イエス様は、「**人の子は、失われた者を捜して救うために来たのです。**」(ルカの福音書 19章 10節)とおっしゃっている。では、何を失い、何が元の正しい状態なのでしょう。

【すべてのものをまとめて】

「放蕩息子の譬え」では、「ある人に二人の息子がいた。弟のほうが父に、『お父さん、財産のうち私がいただく分を下さい』と言った。それで、父は財産を二人に分けてやった。」(ルカの福音書 15章 11-12節)とあります。普通、息子が父親に対して財産を分けて欲しいと言えるのでしょうか。将来的に父親の財産を分けて相続することはあるでしょう。しかし、それは父親が亡くなった後の話です。ここでは、まだ父親は健在です。

しかし、父親は「財産を二人に分けてやった」とあります。すると、「**それから何日もしないうちに、弟息子は、すべてのものをまとめて遠い国に旅立った。**」(ルカの福音書 15章 13節)というのです。ここでは、「すべてのものをまとめて」とあります。家を出るとき、自分の持ち物すべてをまとめるのでしょうか。そこには、「戻らない」といった強い意思が見られます。もしかすると、父親と何かあったのかもしれませんが。

【父親の許を離れた弟息子】

父親の許を離れた弟息子は、落ちぶれていくのがとても早かったです。そこには「**そこで放蕩して、財産を湯水のように使ってしまった。**」(ルカの福音書 15章 13節)とあります。また「**何もかも使い果たした後、その地方全体に激しい飢饉が起こり、彼は食べることに困り始めた。**」(ルカの福音書 15章 14節)ともあります。ここに2つの災難が、弟息子に同時に降りかかりました。財産を使い果たし、その上、激しい飢饉となったのです。いよいよ弟息子は、食べるのにも困り始めました。

そこで、「**その地方に住むある人のところに身を寄せたところ、その人は彼を畑に送って、豚の世話をさせた。**」(ルカの福音書 15章 15節)とあります。弟息子は、仕事に就くことができましたが、それは「豚の世話」でありました。旧約聖書レビ記 10章では、食べた餌を反芻し、ひずめが分かれている動物は、聖いとされています。しかし、ひずめが分かれていても、反芻しない豚は、汚れているとされています。そのためにユダヤ人たちは豚肉を食べないのです。弟息子は、汚れている豚の世話をさせるために送られたのです。これはユダヤ人の弟息子にしてみれば、屈辱です。

それだけではない。なんと「**彼は、豚が食べているいなご豆で腹を満たしたいほどだったが、だれも彼に与えてはくれなかった。**」(ルカの福音書 15章 16節)とあります。汚れている豚の世話をし、豚の餌でお腹を満たしたいと思ってしまうこと自体がとても惨めなことでありました。これは、父親から離れた結果です。